

テクニカルデータシート TI-A13

セーフティキャッチャー KR/Tシリーズ (DGUV認証品)

吊り下げバージョン

セーフティキャッチャーの概要に関しては、「テクニカルインフォメーション TI-A10」をご覧ください。
本製品の取り付けに必要なSITEMA社フランジについては、「テクニカルデータシート TI-A30」をご覧ください。

本製品の取り付けなどに関する情報は、「オペレーティングマニュアル BA-A11」をご覧ください。

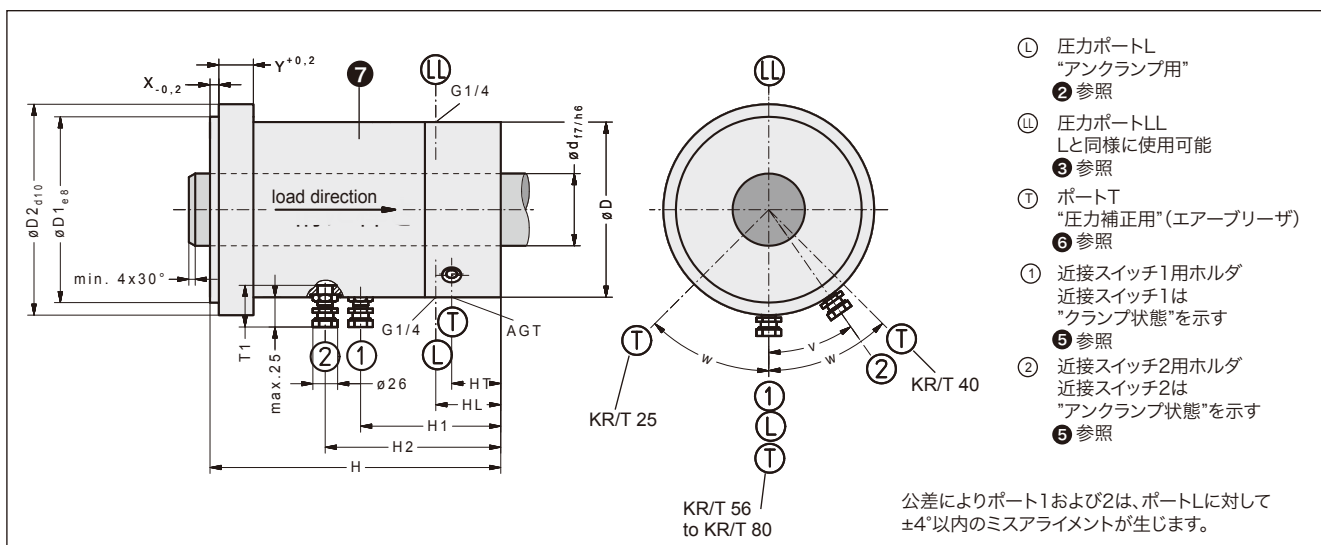


図1: セーフティキャッチャーKR/T 概要図

Type	ID no.	d	M	H	D1	D2	D	X	Y	T1	V	AGT	HL	HT	H1	H2	v	w	Wt.
	(order no.)	mm	kN	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	cm ³		mm	mm	mm	mm			kg
KR/T 25	KR 025 35	25	10	155	70	88	71	3	13	32	3	G1/8	51	51	87	105	23.5°	45°	4.5
KR/T 40	KR 040 35	40	33	214	106	125	106	4	20	34	6	G1/4	63	22	109	128	35°	35°	13
KR/T 56	KR 056 35	56	67	265	140	164	140	5	25	45	11	G1/4	69	25	125	168	0°	0°	26
KR/T 63	KR 063 35	63	85	289	160	188	160	5	30	45	12	G1/4	75	31	129	167	0°	0°	38
KR/T 80	KR 080 35	80	133	325	200	225	194	6	34	45	17	G1/4	73	29	131	179	0°	0°	60

表記された数値は、予告なく変更する場合があります。

① Mは、セーフティキャッチャーの許容負荷を表します。取り付けられる軸の表面がドライ、もしくは油圧作動油が付着している場合、保持力(制動力)は2×Mを下回ることはなく、3.5×Mを超えることはありません。

② アンクランプ状態を維持するために必要な圧力は、40barです。スプリングベース(テクニカルデータシートTI-A21参照)を導入した場合、アンクランプするために必要な圧力は、60barです(テクニカルデータシートTI-A21)。許容作動圧力は、250barです。

③ 圧力ポートLLは、通常はプラグスクリューにより閉栓されています。圧力ポートLに配管を繋ぐのが困難な場合には、その代わりに圧力ポートLLを使用することができます。また、ポートLL(もしくはL)に、オートブリーダを導入することをお勧めします(オートブリーダについては、テクニカルインフォメーションTI-Z10をごらんください)。

④ 作動油内部容積

⑤ 近接スイッチホルダは、スタンダードな近接スイッチ(M12×1 検知距離2mm 埋め込み型 出力:NOC / KR/T25をご使用になる場合 M8×1 検知距離1.5mm 埋め込み型 出力:NOC)をご使用になれます。

表のT1は、近接スイッチホルダ上面から、計測位置までの深さを示します。近接スイッチホルダは、工場出荷時に予めT1の値になるよう取り付けられています。近接スイッチを取り付ける際は、近接スイッチホルダ内部のストッパに当たる位置で固定すれば、そのまま使用することができます。近接スイッチは付属していませんが、オプションのアクセサリとして、本体と一緒にご購入いただくことができます。

⑥ クランプ・アンクランプの切り替わりの際に生じる、ユニット内部のエアの増減は、ポートTを通して調整されます。ポートTにはフィルタープラグ(金色の六角ボルトのようなもの)が装着されており、ダスト等がポートTから製品内部へ入らない様に保護しています。

もし、ポートTから湿気や侵食性のある流体が発生した場合は、フィルタープラグの代わりに空気環境の良いエリアまで配管してください。

⑦ ハウジングは黒色のプライマ処理、前端面は、防錆ワックス処理されています。

テクニカルデータシート TI-A13

セーフティキャッチャー K/TAシリーズ (DGUV認証品)

吊り下げバージョン



セーフティキャッチャーの概要に関しては、「テクニカルインフォメーション TI-A10」をご覧ください。
本製品の取り付けなどに関する情報は、「オペレーティングマニュアル BA-A11」をご覧ください。

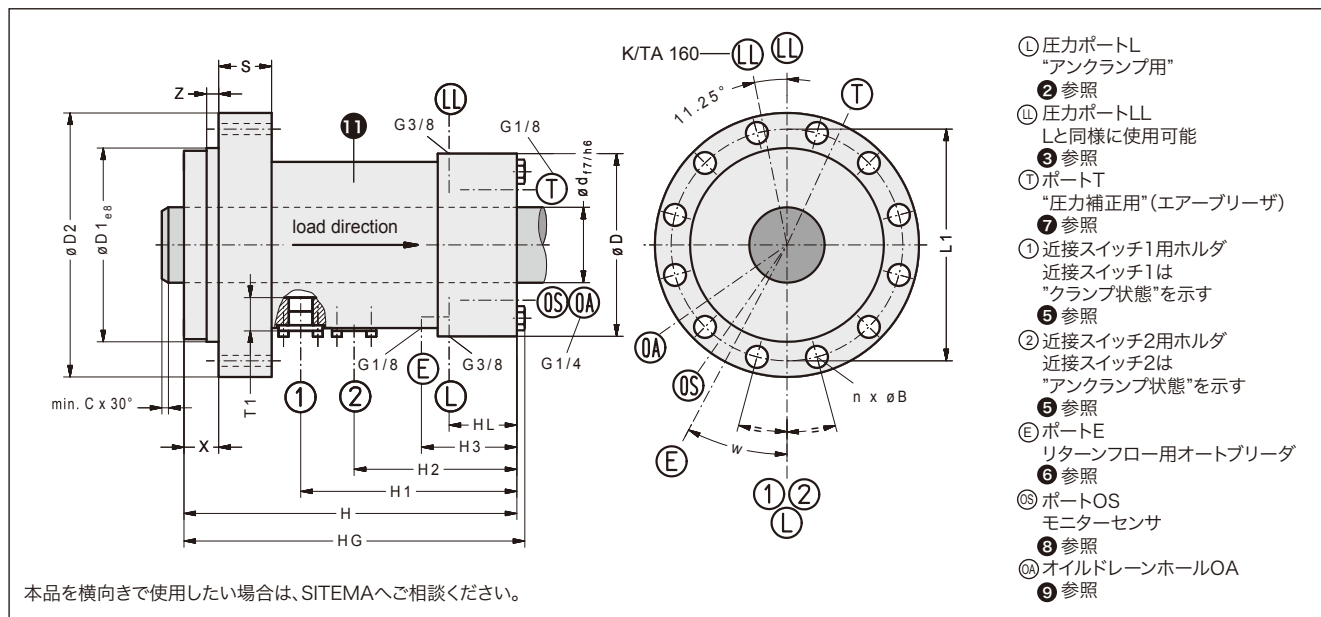


図1: セーフティキャッチャーK/TA 概要図

1															10		5		4								
Type	ID no.	d	C	M	HG	H	D1	D2	D	X	Z	S	n	B		L1	T1	V	w	HL	H1	H2	H3	Wt.			
	(order no.)	mm	mm	kN	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm	mm		mm		mm	mm	cm ³		mm	mm	mm	mm	kg			
K/TA 100	K 100 35	100	5	220	-	327	245	335	255	40	17	60	12	26	M24	290	35	28	61°	54.5	188	136	122	106			
K/TA 125	K 125 35	125	5	330	-	380	275	380	290	60	20	60	12	26	M24	340	48	28	0°	61.5	232	182	124	161			
K/TA 140	K 140 35	140	5	500	-	425	340	460	350	75	45	80	12	33	M30	405	60	28	30°	74.5	173	123	137	272			
K/TA 160	K 160 35	160	5	750	-	540	370	480	380	245	40	85	16	33	M30	425	57	28	33.75°	74.5	173	123	137	383			
K/TA 200	K 200 35	200	7	1000	574	551	440	595	455	50	15	100	18	39	M36	525	65	42	0°	61.5	352	297	129	600			
K/TA 220	K 220 35	220	7	1100	624	588	470	630	475	50	15	110	12	45	M42	550	82	42	0°	61.5	263	213	129	725			

表記された数値は、予告なく変更する場合があります。

- ① Mは、セーフティキャッチャーの許容負荷を表します。取り付けられる軸の表面がドライ、もしくは油圧作動油が付着している場合、保持力(制動力)は $2 \times M$ を下回ることなく、 $3.5 \times M$ を超えることはありません。
- ② アンクランプ状態を維持するために必要な圧力は、40barです。スプリングベース(テクニカルデータシートTI-A21参照)を導入した場合、アンクランプするために必要な圧力は、60barです(テクニカルデータシートTI-A20)。許容作動圧力は、250barです。
- ③ 圧力ポートLLは、通常はプラグスクリューにより閉栓されています。圧力ポートLに配管を繋ぐのが困難な場合には、その代わりに圧力ポートLLを使用することができます。
- ④ 作動油内部容積
- ⑤ 近接スイッチホルダは、スタンダードな近接スイッチ(M12×1 検知距離2mm 埋め込み型 出力:NOC)をご使用になれます。
表のT1は、近接スイッチホルダ上面から、計測位置までの深さを示します。
近接スイッチは付属していませんが、オプションのアクセサリとして、本体と一緒にご購入いただくことができます。

- ⑥ 油圧回路のエア抜きのために、ポートEにはオートブリーダが内蔵されています。少量のオイルが混ざったエアがポートEから流出しますので、無加圧なドレインタンクなどに排出してください。(より詳細な情報に関しては、テクニカルインフォメーションTI-Z10をご覧ください。)
- ⑦ ピストンプランジャのシールの磨耗や損傷といった不具合は、ポートTからのオイル漏れなどで、察知することができます。
- ⑧ オプションで、オイルセンサを装着することができます。このセンサは、シールの磨耗や損傷を初期段階で察知してくれます。
- ⑨ オイルドレインホールは、ピストンプランジャを設置する際に必要です。
- ⑩ ユニートを機械に取り付ける際に、機械側に記載してあるメネジ加工が必要です。
- ⑪ ハウジングは黒色のプライマ処理、前端面は、防錆ワックス処理されています。